

焼肉の日(日本)

語呂合わせの記念日

折り込みチラシが教えてくれる

インターネットが氾濫する時代、新聞の折り込みチラシを見る人は少なくなっているようだ。しかし、スーパーマーケットの折り込みチラシで、今晚のおかずを決めている家庭の主婦はまだ少なくないだろう。かくいうわたしは、スーパーのチラシに年中行事の食文化を見る。正月のおせち料理に始まり、七日の七草がゆ、二月は節分のイワシや寿司の丸かじり、三月はひな祭りのあられや春分のぼた餅。スーパーのチラシは、わたしたちに歳時食を教えてくれる暦でもある。

では今月、八月は何があるだろう。この二九日の「焼肉の日」がある。この日を設定したのは、平成四年に結成された「J・Y」、正式には「全国焼肉店経営者協会」である。その会誌『ヤキニク・パラダイス』の創刊号に、焼肉の日を設定した動機が書かれている。「まず、第一は業界の公益性を図る団体があることを多くの人に認知してもらいたいこと、第二に家庭料理としての焼肉は認知されていますが、外食としての焼肉料理普及、次いで協会が発足してから日が浅いため、未入会の方に協会のメリットを知ってもらいたいことなどです。八月二十九日したのはゴロ合わせ。焼肉はスタミナ料理のイメージがあり、ちょうど夏休みの終わりで夏バテが始まる時期ということもあって、タイム

い夫婦の日に虫歯の日、日本には語呂合わせによる記念日が多くある。夏休みも残りわずかとなり、子どもは宿題、大人は夏バテが気になりはじめる八月二十九日、この日が意味するものは……

リーな設定になっています」とJ・Yの会長がインタビューに答えている。あわせて、J・Yでは、夏こそ焼肉がびつたり合う季節と、八月一日から二十九日まで全国キャンペーン「J・Yヤキニクまつり」を開催するとある。

語呂合わせ日本

夏休みの終わりに合わせて家族で焼肉パーティーというのも納得だが、八月二十九日で「ヤ(八)キニク(二九)」という語呂合わせがにくい。日本には語呂合わせによって設定された「何々の日」がたくさんある。焼肉店の電話番号に八九二九(ヤクニク)、四九八九(ヨクヤク)が多いのもそうだが、語呂合わせは日本

文化といえそうだ。ちなみに焼肉と並ぶ韓国料理の代表キムチは、その辛さのものと「トウ(一〇)ガラシ(四)」からとって一〇月四日を「キムチの日」にしようともくるんだが、あまり知られていない。

焼肉からYAKINIKUへ

焼肉を韓国料理の代表とってしまったが、焼肉という料理名は韓国にはない。韓国では、カルビクイ(カルビ焼き)、ロースクイ(ロース焼き)、コプチャククイ(ホルモン焼き)、ソグムクイ(塩焼き)など、肉の部位や焼き方別の料理名になっている。しいて焼肉に相当することばをさがせばプルコギ。直訳すると

プルは火、コギが肉だから「火肉」となる。ただし、料理としてはまったくの別物。ジンギスカン鍋のような鉄板に、タレに漬けられた薄切りの肉をのせて焼き、牛の骨などからとったスープがそそがれる。韓国風すき焼きといったものである。

日本の焼肉は、在日韓国朝鮮人がそれまで日本人があまり食することのなかった内臓を焼いて食べるホルモン焼きを戦後の闇市で売り出したことに始まるといわれる。その後、煙モクモク、油ギトギトといった焼肉店が、「無煙ロースター」の発明により、女性や子どもも気軽に入れる店に変身してきた。焼肉店は、さまざまな肉の部位をとりそろえ、サイドメニューを充実し、店のヒストリーを打ち出し、日本人の嗜好に合う店を作りあげてきた。『焼肉店繁盛の一〇のノウハウ』と題したマニュアルには

「焼肉のルーツは韓国であるが、味の原点は和食である。この観点から、器、盛りつけにも気を配ることが必要である」とある。また、「焼肉のタレ」の開発によって、本場の味だけでなく、日本人の口に合う和風の焼肉が家庭に普及してきた。焼肉のタレは、食品産業のひとつのジャンルを形成するまで成長している。

今や焼肉は日本の食を代表するものになっている。外食としての焼肉は、高級な専門店からファミリールレスト

ランや定食屋でも食べられる。家庭での焼肉は、大人も子どもも大好きなおかずになっている。しかも、フライパンひとつで手軽に作れる。日本での焼肉は「外食ではごちそう、家庭では手抜き料理」といわれる由縁だ。それにしても焼肉というのは、すばらしいネーミングだった。焼いた肉という単純明快な名前は、肉の種類、焼き方、味つけ、どれを変えてもかまわない。だからこそ、さまざまな焼肉が開発され、進化してきた。そして、YAKINIKUはSUKIYAKI、SUSHIに続いて世界に打って出ている。

もうひとつの八月二十九日

日本の焼肉は、朝鮮半島をルーツとし、在日韓国朝鮮人によって生み出され、日本社会が育てた料理。民博の機関研究の用語を借りれば、朝鮮半島からもたらされ、日本社会が包摂し、自律した食となる。焼肉の日の設定は、焼肉が日本化に成功した記念日ともいえる。

この焼肉の日、八月二十九日は、奇しくも韓国併合二閣スル条約が発効された日でもある。朝鮮半島が名実ともに日本に植民地化されたのが、一九一〇年のこの日であった。語呂合わせで覚えると「人(一)悔い(九一)を(〇)残す韓国併合」である。今年はその一〇〇周年にあたる。



焼肉の焼き手はお母さん。川西市にて(撮影・久保正敏)